

出向く営農レポート

～イチゴのマグネシウム欠乏について～

訪問日:1月13日



北部営農センター
與語 哲志

長久手市で農業を営む山本敦さんの圃場に出向きました。

山本さんは就農3年目の若手農家で、家族の協力のもと様々な作物を栽培し、長久手グリーンセンターや尾張旭グリーンセンター、瀬戸グリーンセンター、平和堂日進香久山店へ出荷しています。

今回は、試験的に栽培しているイチゴの生育状況が良くないという相談があり、葉の状態を確認したところ、葉先が全体的に茶色に変色しており、正常な生育状況でないことを確認しました。

イチゴの葉先が茶色に変色する原因はいくつかありますが、今回の症状はマグネシウム欠乏だと判断しました。原因としては、定植時に肥料を多く施していたことが挙げられます。肥料(特にカリウム)を与えすぎるとマグネシウムの吸収を阻害してしまい、土壌中にマグネシウムが含まれていても十分に吸収できず、マグネシウム欠乏が発生してしまいます。

イチゴを育てる際は肥料の過剰施肥を避け、生育状態を見ながら必要に応じて追肥を行うよう提案しました。



イチゴのマグネシウム欠乏の症状

今回の状況を踏まえ、より良い品質のイチゴが栽培できるよう、引き続き栽培指導を実施していきます。



今回は肥料の過剰施肥が原因でイチゴにマグネシウム欠乏が発生しましたが、他の作物においても様々な欠乏症は発生します。例えば、これからの夏作では、トマトの「尻腐れ病」というカルシウム欠乏が挙げられます。

このような症状が発生した場合におすすめの資材が「カルあげー」です。この資材には、酢酸とカルシウム、微量元素が含まれており、酢酸による乾燥ストレス耐性の強化とカルシウムの補給が期待できます。